

文部科学省高等教育企画課
高等教育政策室長 榎本 剛 殿

社団法人 私立大学情報教育協会
会 長 戸 高 敏 之

分野別「学士力」考察の中間報告（お願い）

政府は、「教育振興基本経計画」の中で文部科学省中央教育審議会の「学士課程教育の構築に向けて」を受けて、教育の分野にかかわらず共通に身に付ける学習成果の明確化に取り組むとともに、分野別教育の質の向上を図るため、学習成果や到達目標の設定などの取り組みを促すとしております。併せて分野別の質保証の枠組み作りを日本学術会議と連携を図りつつ進めるとして、審議依頼されたと側聞しております。

高等教育が社会の信頼に応え、世界に通用する教育を実現していくには、教育の質保証の枠組み作りが急がれますが、それには教育の多様性に配慮しつつ取り組むことが同審議会でも指摘されておりますことから、分野ごとに教員の見解を広く求めるとともに、社会の人材育成ニーズの意見を参考に多角的かつ慎重な検討が望まれます。

そこで、本協会では事業の一環として、分野別教育に求められる固有の学士力を考察することになり、下記により最低限身に付けることが望まれる「学習成果」、「コア・カリキュラムのイメージ」、「学習到達度の測定・評価」について、私立大学の教員の見解を21年度に向け段階的にとりまとめ、文部科学省に参考意見として報告・提言することになりました。

つきましては、今後予定されます質保証の枠組みの検討に際して、参考に供していただきたくお願い申し上げます。

記

- ① 本年度は、中央教育審議会が報告の「学士課程共通の学習成果に関する参考指針」の共通学士力の上に、分野ごとに「最低限身に付けるべき固有の能力」を大まかにとりまとめ、中間的に報告することになりました。21年度は審議会の参考指針に沿って詳細な学士力を報告・提言する予定にしております。
- ② 中間報告でとりあげた分野は、委員会できりまとめができた24分野としました。なお、医学、歯学、薬学は、学習成果、コア・カリキュラムが既に策定されていますので今回は除外しました。21年度は、新たに可能な範囲で、社会学、コミュニケーション学、看護学、獣医学、畜産学などの分野を追加する予定です。
- ③ 中間報告のとりまとめは、別紙の委員会組織で原案を作成し、その上で本協会加盟校の専任教員で組織する分野別の「サイバーFD研究員」（約1万5千人）の中からインターネットで8千人に意見を伺い、約720名から意見を回収しました。また、委員を通じて社会人からも意見を聴取し、それらの意見を統合して「端的で簡潔な表現」となるよう文案を推敲しました。 →